

「王たちの争いとロトの救出」

2020年12月04日

こうして四人の王は、ソドムとゴモラの財産や食料をすべて奪って行った。彼らは、アブラムの甥ロトとその財産をも奪って行った。ロトはソドムに住んでいたのである。(創世記14章11節～12節) 夜になって、アブラムと僕たちは分かれて相手を攻撃し、ダマスコの北のホバまで追って行った。アブラムは財産のすべてを取り戻し、親類のロトとその財産、女たちとその他の人々も取り戻した。(創世記14章15節～16節)

カナンのは、様々な民族・部族が軍雄割拠し、それぞれが合従連合しながら、自らの生存をかけた争いに明け暮れていた。王たちにとって、この民族・部族抗争が生きるか、死ぬかの最も大きな関心事であった。そして、抗争が激化した。エラムの王ケドルラオメルに与する4人の王たちの同盟軍は強力な力を有していた。一方、ソドム、ゴモラを中心にした5人の王たちの同盟軍が対峙していた。ソドム、ゴモラの5人の王たちはケドルラオメルら、4人の王たちの力に屈し、12年間、隷属していたが、13年目に反旗を翻した。ケドルラオメルに味方する4人の王たちは、近隣の王たちを打ち破り、破竹の勢いで進軍して来た。これを見たソドム、ゴモラの王ら5人の王たちは結集し、向かい討とうと戦列を整えた。しかし、ケドルラオメルの4人の王たちの軍勢の力には、対抗することができず、5人の王たちは谷にあったアスファルトの穴に落ちたり、山に逃れたりして、惨敗した。「四人の王は、ソドムとゴモラの財産や食料をすべて奪って行った。彼らは、アブラムの甥ロトとその財産をも奪って行った。ロトはソドムに住んでいたのである。」ロトは、アブラムと別れる時、更に多くの財産を得ようと、緑豊かな平地を選び、ソドムに住んでいた。ソドムは富んではいたが、精神的には荒廃した町で、ケドルラオメルらの王たちはソドムを易々と滅ぼし、蓄えていた多くの財産、食料を強奪していった。煽りを受けたロトの家族は捕虜になり、財産も奪われた。戦いに勝つと、その地の人々を捕虜として連行し、奴隷にする。財産、食料を奪い取り、持ち帰る。戦いに勝った王たちは莫大な利益を手に納めることができた。力ある王が、弱い王を打ち負かし勢力を拡大する、むき出しの暴力が支配する非情な世界であった。

戦いから逃げ延びた一人の男が、アブラムのもとにきて、ロト一家が連れ去られ、財産が奪われたことを報告した。アブラムは、アモリ人マムレと彼の兄弟エシュコルとアネルと同盟を結んでいた。アブラムも一族のために、同盟を組んで安泰を図っていたのである。アブラムはロト一家の救出のため、家で訓練された318人の従者を動員した。アブラムの従者が318人もいたとは思えない。同盟を組んでいたマムレー族の応援を受けていた。急遽、作られた従者たちの軍団はケドルラオメルら4人の王たちの軍勢を追って、ダンまで来た。アブラムは夜に、軍団を分けて攻撃した。夜討ちをかけた訳で、アブラムは、家畜を飼う者であったが、戦いにも長けていたようである。急襲を受けた相手方は大慌てで退却していった。アブラムの軍団はダマスコの北ホバまで追撃した。そして、強奪された財産を取り戻し、ロトとその財産、女たちとその他の人々も取り戻した。アブラムは大勝利をもたらしたのである。時代の覇者であったケドルラオメル王が率いる軍団を打ち負かすことができるほど、アブラムは図抜けた戦闘能力を持っていたということである。アブラムのロトに対する愛が勝利をもたらしたのであろうが、聖書は、神のアブラムへの変わらない祝福を伝えている。